

## 道徳科学習指導案（小学校 1 年生）

1 主題名 わがままばかりしていると 「かぼちゃのつる」  
〔A - (3) 節度 節制〕

2 主題設定の理由

(1) 学びのつながり

・学習指導要領における位置〔A - (3) 節度、節制〕の系統

本主題は、新学習指導要領【道徳】の中の以下に基づいて具体的に構成したものである。

〔第1学年及び第2学年の内容〕		
A 主として自分自身に関する事		
学年	内容項目	資料名
低学年	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事。	1年 ゆうたのへんしん あとかたづけ やすみじかん
		2年 あぶないよ どうしてないてるの るっぺどうしたの
中学年	自分でできることは、自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする事。	3年 足りない気持ちは何だろう れいぎ正しい人
		4年 あいさつができた フィンガーボール
高学年	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける事。	5年 あいさつ運動
		6年 人間を作る道 - 剣道 -
中学校	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	

**1年1学期**

**学活**  
「1ねんせいになって」  
「学校の行き帰り」

**道徳**  
「ゆうたのへんしん」  
「あとかたづけ」

**学校行事**  
人権月間

**2, 3学期**

**学活**  
みんななかよく

**道徳**  
かぼちゃのつる  
やすみじかん

**生活科**  
たのしいあきいっぱい  
むかしのあそび  
2年生になったら

**学校行事**  
バス旅行  
後期人権月間

これまでに、児童は、教材「ゆうたのへんしん」を活用して、規則正しい生活とそうでない生活を比較して、それぞれの気持ちの違いに気付くことを通して、わがままをしないで、規則正しい生活をしようとする判断力を育ててきた。また、教材「あとかたづけ」では、自分の生活を振り返り、後片付けができた時とできなかった時の気持ちを考えることで後片付けをきちんとするととても気持ちがよいことや使いやすくなることを実感することができた。

ここでは、教材「かぼちゃのつる」を活用して、わがままを通して周囲に迷惑をかけ、最後は自分が嫌な思いをするかぼちゃの気持ちを考えていくことで、わがままをしないで生活することの大切さに気付き、その心情を育てていく。

このあとは、学校生活や生活科の校外学習など、学校以外の場での身の振る舞いなどについて学習したことを生かしていく。また、後期人権月間では、前期人権週間からのつながりを意識させ、周囲の人のことを考えて、わがままをしないで生活しようとする事も相手に対する思いやりであることに気付かせていく。2年生では、教材「あぶないよ」を活用して、知らない人でも優しそだったり、きちんとした服装や言葉遣いに人だたりすると、悪い人と思いにくくなることに気付き、安全に生活しようという態度を育てていく。さらに、中学校では、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をするための学びを深めていく。

実生活においてわがままを通したり、周囲の人に迷惑をかけたりせずに気持ちよく生活するこ

とは、よりよい人間関係を築いていく上でとても大切である。これは、学級目標「話をよく聞き、考える子」「友達を思いやり、仲良くする子」「元気に活動し、最後までがんばりぬく子」「みんなのためにがんばる子」の育成、さらには、学校教育目標「地域や自他を大切にし、社会に貢献できる自立した児童生徒の育成」にもつながると考える。

#### (2) ねらいとする道徳的価値

本主題における学習指導要領の内容項目は、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事」で、自分勝手な行動を押し通すと、自分も周りの人も嫌な思いをすることに気付き、わがままをしないで生活しようとする心情を育てるものである。

基本的な生活習慣の中で、自分のわがままな気持ちを抑えて生活する態度は、とても大切である。自分さえよければよいという自己中心的な生活態度では、集団の中で気持ちよく生活することはできず、他人に迷惑をかけてしまうことになる。

1年生のこの時期の児童は、自己中心的な傾向が強くて、周囲まで気配りができないことから、相手の様子に応じた言葉かけや行動をとるのは難しい。つつい自分の気持ちを優先させ、わがままを通してしまうこともある。そうならないために、自分の思うままに行動するのではなく深く考えて行動し、人の意見をしっかり聞こうとする態度を育てることが大切である。

本主題は、わがままを通して周囲に迷惑をかけ、最後は自分が嫌な思いをするかぼちゃの気持ちを考えていくことで、わがままをしないで生活することの大切さに気付き、その心情を育てることができると思う。

#### (3) 児童の実態

～ 略 ～

#### (4) 教材について

教材名「かぼちゃのつる」（「いきるちから1年」日文）を活用する。本教材は、自分勝手なわがままなかぼちゃが、ハチやチョウ、スイカや犬の忠告を聞かずに道まで、自分のしたい放題にのぼしていき、最後には、車につるを切られて涙をこぼしてなくという話である。ハチやチョウ、スイカに注意されても聞き入れようとはせず、犬に踏まれてもそんなことぐらい平気だと、自分勝手な行動を押し通し、周りの迷惑を考えないことを十分につかむことができる。また、わがままを押し通していたかぼちゃが、つるを切られ初めて自分の自己中心的な行為に気付き、わがままをしないで生活することの大切さを押さえる事ができる内容でもある。

本教材は、かぼちゃやハチ、チョウ、スイカや犬など親しみやすいイラストで端的に表現しているという特徴もある。1年生の児童にとって、わかりやすい内容であるとともに、次がどうなるか、臨場感のある展開で構成されている。児童は本教材を通して、かぼちゃが自分自身の行き過ぎた行動を振り返り、反省する気持ちに十分共感し、節度ある生活をしようという気持ちをもつことができると言える。

### 3 指導方針

#### <事前>

- ・ 日常の観察や事前調査によって実態を把握して、実態に応じた指導ができるように努める。
- ・ 教材に出てくるかぼちゃについての本を紹介しておき、取り上げられている場面をイメージしやすくしておく。

#### <本時の導入>

- ・ 本時に関わる日常の生活について事前にアンケートをしたものを提示して、学習の方向を捉えられるようにする。

#### <本時の展開>

- ・ 場面絵やペープサートを使って、黒板シアター風に教材を提示して、児童が話の内容を理解できるようにする。
- ・ 場面絵やペープサートを活用して話の展開や思考の過程が分かるよう板書を構成する。
- ・ 場面状況を把握して、主人公になりきって本音を出せるように、役割演技を取り入れる。
- ・ ねらいとする価値に迫れるよう、本音を引き出す。多様な意見にふれて考えを広げる。発言の根拠を聞くなどの発問を工夫する。

- ・中心発問では、児童が自分の考えを表現しやすいようなワークシートを工夫する。
- ・全体で話し合う場面では、個人で考えた後、隣の友達と考えを伝え合う活動などを取り入れ、全員の児童が、自分の考えを伝えられるようにする。
- ・展開後半では、導入のアンケートやめあてに戻り、児童が本時の学習と自分を照らし合わせて振り返りができるようにする。

<本時の終末>

- ・終末に書く活動を取り入れることで、価値に対して自分で考える時間を取り、自分が考えていることを明確にできるようにする。ただし、1年生という実態から書くことに抵抗のある児童もいるので負担なく書けるようワークシートを工夫する。

<事後>

- ・帰りの会の「1日の振り返り」で、自分の生活について振り返るような場を設定して、実践へとつなげていく。

4 本時の学習

(1) ねらい

自分勝手な行動を押し通すと、自分も周りの人も嫌な思いをすることに気づき、わがままをしないで生活しようとする心情を育てる。

(2) つなぎ教材

	つなぎ教材名	目 的	つなぎ方
①	事前アンケート	日常生活を想起させ、本時の道徳的価値に問題意識がもてるようにする。	導入の場面で提示し、学習の方向性に気付かせる。「振り返り」でもう一度事前アンケートの結果に戻り、生活とのつながりをもたせ、学習したことが自分事として捉えさせるようにする。
②	場面絵やペープサートによる教材提示と板書	場面絵やペープサートで黒板全体を使ってシアター風に教材を提示することで、児童が教材に興味をもって、教材理解ができるようにする。また、構造的な板書によって多様な意見に気付いたり、自分と友達の考えの違いに気付いたりできるようにする。	話の流れに沿って場面絵やペープサートを提示していく。児童から出された意見は、整理しながら黒板にまとめていく。

(3) 展 開

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
導 入	<b>1. 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①アンケートを見て、自分の生活について振り返りましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に行った生活アンケートを見て、今までの生活の中で、わがままをしたり、ルールを守れずに注意されたり、やり過ぎてしまったりしたことについて振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下を走ってしまい、注意された。</li> <li>・ゲームをやりすぎてしかられてしまった。</li> <li>・夜おそくまで起きていてしかられた。</li> <li>・食べ過ぎておなかを痛くした。</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの生活についてのアンケートを見ることで、ねらいとする道徳的価値について問題意識がもてるようにする。</li> </ul> ☆つなぎ教材の活用
	めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わががままやじぶんがってをしないでせいかつするには、どうしたらいいかな。</div>			
	<b>2. 「かぼちゃのつる」を聞く。</b> <b>3. 教材文を聞いて自分の考えをもち、交流する。</b>			☆つなぎ教材の活用 ・黒板を使いパネルシアター風に登場人物を登場させ、

展

②つるがぐんぐん伸びている時、かぼちゃは、どんなことを思ったでしょう。

- ・かぼちゃになりきって、つるをどんどん伸ばしていく時の気持ちを考える。

③みんなに畑や道路まで伸びてはいけないと言われた時のかぼちゃは、どんなことを思ったでしょう。

- ・かぼちゃになりきって、気持ちを考えて役割演技をする。

開

④みつばちやチョウチョ、スイカ、犬は、どんな気持ちだったか考えてみよう。

- ・かぼちゃと他の登場人物になりきって、気持ちを考えて役割演技をする。

⑤車にひかれて、つるを切られたかぼちゃは、ぼろぼろなみだをこぼしながらどんなことを思ったでしょう。

- ・ワークシートに、かぼちゃの考えていることを書く。
- ・自分の考えを発表し、意見を交流する。(ペア→全体)

**4. 本時のめあてに戻り、わががママやじぶんがってをしないでせいかつするには、どうしたらいいか、考える。**

- ・もっと伸びて大きくなるぞ。
- ・どんどん伸びて、おいしいかぼちゃになるぞ。

- ・うるさいな、別にいいだろう。
- ・どっちに伸びようと勝手だろう。
- ・ほうっておいてよ。

- ・困ったな。なんで言うことを聞いてくれないんだろう。自分勝手だな。どうなっても知らないよ。

- ・痛いよう。
- ・せっかく伸ばしたつるを切られてしまった。
- ・こんなところまで、つるをのぼさなければよかった。
- ・せっかく注意してくれたのに、言うことを聞かずに伸ばしたからこんなことになってしまった。
- ・言うことを聞いていればよかった。
- ・みんなに悪いことをしてしまったな。

- ・やりすぎないように、気を付ける。
- ・まわりの人の気持ちも考える。
- ・がまんしたり、まわりの人の注意を聞く。

30分

児童が具体的に場面をイメージしやすいようにする。

- ・登場人物の気持ちを問いかけ、児童が、かぼちゃになりきって本音を語れるようにする。
- ・かぼちゃがどんどん伸びていくときの気持ちよさやたくましさについても共感させる。

- ・役割演技を取り入れる。初めに、児童がかぼちゃ役、教師が他の生き物役になり、演技をさせる。どんどんつるを伸ばしていくかぼちゃの自分勝手な気持ちをつかませる。次に、児童に生き物とかぼちゃの両方の役をさせ、注意を聞かないかぼちゃに対して困っている周囲の思いにも共感できるようにする。【自己決定】

- ・周囲のことも考えずに自分さえよければよいという自分勝手なかぼちゃの気持ちに気付かせる。

- ・ワークシートの吹き出しに車にひかれつるを切られたかぼちゃの考えを書くようにして、自分の考えを明確にできるようにする。

【自己決定】

- ・ワークシートに書いたことを隣の友達と伝え合って、全員が自分の考えを友達同士で伝えあえるようにする。

- ・全体で発表を聞き合うことで、友達の多様な感じ方や考え方に気付けるようにする。【共感的人間関係】

- ・周囲の注意を聞かずに行動をして、痛い目にあってしまったかぼちゃが、後悔していることを押さえる。

- ・めあてにもどり、どう行動したらよいか、考えられるようにする。

